

平成26年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	京都造形芸術大学	職名	非常勤講師	助成金額	400,000円
氏名	旦部辰徳	印	メール アドレス		

研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）

大正期文学における〈部屋〉の表象―「生活改善運動」との関係から

助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）

本研究は、大正期文学における空間表象と微視的な空間統治権力―国土のあらゆる資源を徴発可能にする戦時体制へと連続してゆく生活改善運動―の結び付きを示すことで、従来の文学研究では捉えきれていない大正期文学の一問題系を明らかにすることを目的としている。この度は、比較文学的な展望を拓き、「20世紀初頭における世界同時代的な社会運動としての生活改善運動と文学表現の連動」という大きな問題系を構築するために、主にヨーロッパにおける生活改善運動と文学表象の関連や、ヨーロッパ近代の視覚文化における空間表象の問題を探るべく、以下の調査を行った。とりわけ、文学者サークルのコミットが強く表れていたドイツの田園都市での調査に注力した。

①ドレスデンの田園都市ヘレラウの視察及び関連資料の調査

期間：2月25日～3月1日、3月5日～7日

内容：田園都市の提唱者エベネザー・ハウードの思想に基づき、1909年に造られたドイツ初の田園都市ヘレラウの視察及びドレスデン・フランクフルトの資料館・図書館にて関連資料の収集を行った。収集対象の資料は、以下の人物及び団体のものに絞った。

- i. ヘレラウの出版部門〈ヘレラウ出版〉にて中心的な役割を果たし、文芸雑誌の編集・文芸サロンの開催を指揮していたパウル・アードラーの諸著作、最新の研究書
- ii. ドイツ田園都市協会の母体である〈新共同体〉の関連資料、最新の研究書
- iii. 〈新共同体〉の主要メンバーを擁した〈フリードリヒスハーゲン文学サークル〉に所属の文学者（ハウプトマン、ベルシェ、トーマス・マンら）の諸著作、最新の研究書

②イタリア・ローマでのシンポジウム〈哲学と芸術における目と眼差し〉の聴講

期間：3月2日～4日

内容：ローマ大学トル・ヴェルガータにおいて開催された、美術史とカルチュラル・スタディーズ、哲学と芸術、視覚芸術と映画を扱うシンポジウムを聴講し、視覚文化研究における新たな問題意識や研究手法など様々な有益な情報を得た。

生活改善運動に関わった文学界の諸人物による作品や言説においては、大正期の日本のように空間描写への偏愛ではなく（マン「予言者の家」では労働者の家やアトリエの描写があるが、描写自体が目的となるまでの強度は得られていない）、例えば、ハウプトマンの「使徒」において日光による精神と身体の浄化が描かれるように、疑似宗教的な思想性をベースとした倫理観や理想主義的都市観が作品の仮構原理となっているように感じられた。「生の改革」としての生活改善を描く際に、ドイツでは生の倫理が問われたのに対し、何故日本ではそうならなかったのかという点を考えることは、大正期文学における〈部屋〉の表象の問題を考える上で、非常に重要な観点となろう。

助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）

発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)